

詳 細

○ブナシメジ栽培後の廃菌床を、新たなブナシメジ栽培用の培地材料に使用する試験

基材（スギオガ粉）の２～６割を廃菌床で代替した培地で、ブナシメジの栽培試験を行いました。

その結果、

- ・ 廃菌床の割合が多いほど、殺菌不良のビンの割合が多くなりました。
- ・ 廃菌床の割合が多いほど、菌糸がビン全体に蔓延する日数が長くなりました。
- ・ どの割合の区も正常に子実体が発生し、２～６割の使用割合においては、廃菌床を培地基材として使用できることが分かりました。

（収量の増加・減少への影響は、今後の試験でさらに検証する予定です）

今回の報告では、培地作成の過程、培養時の状況、子実体の発生状況の説明とともに、特産棟における試験で発生した子実体の実物を見ていただきます。

○ウスヒラタケ菌床栽培における数種類の廃菌床の利用試験

ウスヒラタケの菌床栽培において、各種キノコの廃菌床が栽培に与える影響を調査しました。基材（スギオガ粉）の半分量を５種類の廃菌床（シイタケ、エリンギ、ナメコ、マイタケ、ブナシメジ）で代替した培地で、ウスヒラタケの栽培試験を行いました。

その結果、子実体発生量が最も多かったのはナメコの廃菌床を混合した培地でした。

さらに、ナメコ廃菌床を様々な代替率で混合したところ、子実体発生量はいずれの代替率でもスギオガ粉単独に比較して多くなりました。生産者の異なるナメコ廃菌床で代替した場合でも、子実体発生に及ぼす影響に有意な差はみられず、異なるナメコ廃菌床でも同様な傾向を示す結果となりました。

この試験での子実体の発生状況等について報告いたします。

この情報交換会は、県内の空調施設栽培の方々に広くご案内しております。